

提案型協働事業報告書 (活動支援交付金)

団 体 名	朴の会 (ほおのかい)
1 該当する町の施策方針	「22のめざすべきまちの姿」 ・子どもたちが楽しく学校生活を送っている町 「61の施策方針」 ・学校教育を充実する ・健全な心と体の育成を進める
2 解決へ向けて取り組んだ地域課題	・不登校・ひきこもりがちな本人とその家族を支援する。 ・講師から出された不登校児の事例をエコマップ (課題をもつ本人や家族のもつ資源を関係図に描き出したもの) を作りながら、さまざまな角度・視点から問題解決の方法を小中学校の先生方と一緒に考えることができた。
3 協働対象部署	・学校教育課
4 事業の内容等  (1) 事業内容と方法  (2) 実施場所 (3) 対象者 (人数等具体的に)  (4) 事業PRの方法	(1) 日本福祉大学准教授・野尻紀恵氏：スクールソーシャルワーカー、の「不登校を考える」講座を実施。 実施日：7月31日(金)・8月4日(火)・8月26日(水) 講座内容 ・①「不登校の構造を知る」 ・②「不登校とは何か」 ・③「不登校の支援方法を考える」 ・時間構成・講師のレクチャー (1時間)・グループ討議 (1時間)・まとめ (30分) 合計2時間半 (2) 武豊町の思いやりセンター2階会議室 (3) 参加人数とその内訳及び合計人数 ・7月31日(金) 小中学校の先生 (40人)・大学生 (1人) 社協職員 (2人)・朴の会会員 (8人) *1回目 計51人 ・8月4日(火) 小中学校の先生 (42人)・大学生 (8人) 社協職員 (3人)・朴の会会員 (7人) *2回目 計60人 ・8月26日(水) 小中学校の先生 (39人)・大学生 (1人) 社協職員 (2人)・朴の会会員 (6人) *3回目 計48人 ◎講座3回の参加人数は、合計159人 1・講座の内容を講師と作成。実施日については学校教育課と調整し、夏休みの中の3日間とした。 2・当日の内容のほかに、リーフレット裏面には講師のプロフィールを入れ、目的を明確にした。・紙質や色にも他のものと違う特徴の有る「茶系」にし、分かりやすくした。

<p>(5) その他</p>	<p>3・校長会に講座の主旨を説明し、先生方の参加を依頼した。  4・リーフレットを各学校のすべての職員に届くように配布をお願いした。  5・参加申し込みは、各教務主任の先生方が回収し、最終的には教育委員会で集計をして戴きました。</p> <p>・なし</p>
<p>5 事業実施により得られた効果</p>	<p>1・先生方は子ども達のことを良く考えておられ、一緒に受講する中で多くの具体的な対策方法を学ぶことができた。  ジェノグラムやエコマップ等この研修で得たことを今後利用したいという参加者の感想が多かった。  2・子供をみるシステムを変えることで児童生徒の観方・親に対する観方が変わると言う、新しい発見ができた。  3・不登校問題の難しさだけでなく、それを支援しようとしている「朴の会」への理解も前進した。  4・次年度の講座開催への期待の声が最終日に多く聞かれた。  5・SSW等の必要性の声や「もっと学びたい・知りたい」という前向きな声が聞かれた。</p>
<p>6 次年度以降の事業展開</p>	<p>1・関係機関との連携や地域の理解と協力を得ながら、問題解決の方向性を探りだし具体的な検討を重ねていける場にしていきたい。  2・具体的には学校教育課だけでなく、子育て支援課や福祉課等との協力を図ることで、不登校問題を一緒に考え、解決の糸口が具体化することを望みたい。</p>
<p>7 その他</p>	<p>1・関係機関、学校、先生方に絶大なご協力をいただき運営がスムーズ運べました。</p>

※ 記入欄が不足するときは、別紙を添付してください。